

施策名	1 市民自治活動・学び
-----	-------------

R9年度末にめざす状態 (施策目標)【P】	自ら学び、地域活動や市民活動に取り組む市民が増えている	進捗度	C
--------------------------	-----------------------------	-----	---

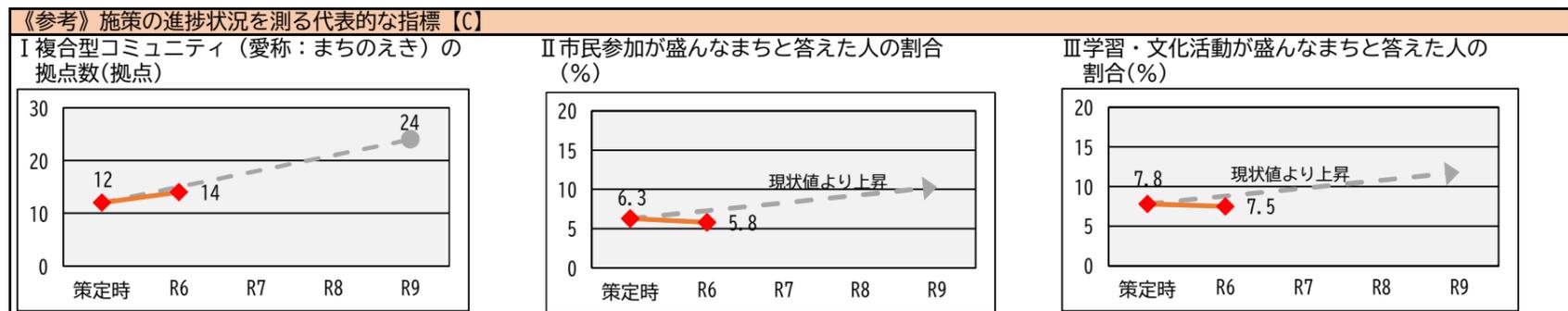
総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等	

【進捗度】A：4年後にめざす状態をすでに実現している、B：4年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：4年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：4年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：4年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

(1)持続可能な身近なコミュニティづくり		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
<p>自治会加入率低下等による地域のつながりの希薄化が進む中、防災や高齢者・こどもの見守り、居場所づくりなど地域内の支え合いの必要性が高まっている状況を踏まえて、地域コミュニティの中核である自治会を中心とした支援を実施した。具体的には、自治会運営や活動拠点整備、デジタル化推進にかかる費用等に対する補助金交付や市民自治協議会の活動に対する支援を実施している。また、歩いて通える集会所等を交流拠点とする「複合型コミュニティ(まちのえき)」づくりを実施する自治会に対して伴走支援を行うことで、新たな交流が生まれた。</p> <p>様々な分野における市民活動の展開については、各講座において参加者同士が交流・対話する機会を十分に確保した結果、アンケートでは約9割が「活動に必要な新しい仲間ができた」と答え、活動のスキルを学ぶだけでなく、活動継続に必要な仲間づくりの機会をつくることのできた。特に「居場所づくり」というテーマでは、1回完結講座の人気を踏まえて、実践的に学び合う連続講座を企画・実施したところ、新たな活動の創出に繋がった。</p>	<p>No.1 複合型コミュニティ 「まちのえき」づくり</p> <p>No.2 市民活動創発プラットフォーム「BASE生駒」</p>	<p>令和6年度に4自治会、2拠点で新たに取組が始まり、市内で17自治会14拠点で複合型コミュニティ「まちのえき」づくりが進んでいる。</p> <p>1回完結講座を6回、連続講座を1回実施し、138名の参加を得た。参加者の8割が働き盛り世代であった。</p>
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
<p>地域コミュニティの活性化に向けては、高齢化や資金面の不安等から自治会活動のデジタル化が進みにくいという課題や、地域の担い手不足等の影響から、新たに複合型コミュニティ「まちのえき」づくりに取り組んだり、新たに「市民自治協議会」を立ち上げたりといった機運が高まりにくい現状がある。特に「まちのえき」づくりの支援には、補助金終了後も活動が継続するよう活動の幅を広げるための伴走支援が求められる。</p> <p>様々な分野の市民活動の展開においては、市民公益活動は日常的な関わりやつながりの中から生まれるものであるため、活動に必要なノウハウを学ぶ単発講座の開催だけでは担い手の広がりと言う面で課題がある。公益性の有無を一面の・固定的に捉えず、趣味や教養を深める活動であっても公益との結びつきが意識されるような支援が必要である。また、活動を始める際の障壁として金銭的な課題もあるため、活動初期の財政的支援も必要である。</p>	<p>持続可能な身近なコミュニティづくりに向けて、スマホ教室の開催やデジタル化推進に係る補助金の活用促進等により、自治会活動のデジタル化を推進する。また、新たな市民自治協議会の立ち上げに向けて地域の意向を把握するとともに、必要に応じてワークショップを実施するなどの支援を行う。さらに、「まちのえき」づくりに取り組む自治会への補助金交付や、各「まちのえき」のつながりを強化するネットワーク会議の運営等を通して、新規立ち上げと取組の継続を支援する。</p> <p>様々な分野における市民活動の推進については、市民公益活動の立ち上げや継続を支援するための新しい補助金を創設するとともに、専門家相談事業により活動をバックアップする。相談事業については、市民活動推進センター職員の相談力の向上にもつなげる。今後は1回完結講座で市民のニーズをつかみ、連続講座でより深く学んでもらい、補助金と専門家への相談で活動の立ち上げと継続を支援するという一連の流れをつくりたい。</p>	

(2)主体的な学びの場の創出		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
<p>学びと交流の場づくりとして、子育て世代を中心に、市民が主体的に学び交流する「ischool」を展開するとともに、62歳以上の市民を中心に学びの場と社会貢献につながる機会を提供する「いこま寿大学」の運営に取り組んだ。また、生涯学習施設整備事業においては、老朽化が進んでいる市内生涯学習施設の改修・修繕を行い、施設利用者の安心・安全を確保することができた。</p> <p>まちづくりの拠点としての図書館づくりにおいては、ボランティア活動の参加募集やボランティア養成講座の開催など、図書館運営に主体的に関わっていただく機会を多く創出し、市民の学びと活動に繋がった。特に「働く大人の週末ゼミ」では、参加しやすい時間帯(夜・週末)に開催し、仕事や人生を考えるためのテーマを設定することにより、働く世代が集まる場を創出することができた。</p>	<p>No.3 学びと活躍推進事業</p> <p>No.4 高齢者教育推進事業</p> <p>No.9 まちづくりの拠点としての図書館づくり</p>	<p>子育て層を中心として16回の講座を実施したほか、「インクルーシブアートワークショップ」を実施した。</p> <p>いこま寿大学でのクラブ学習や一般教養学習会等、高齢者の学びの場づくりに取り組んだ。また、セカンドライフに関する講演会や講座を実施した。</p> <p>団体貸出登録件数が8件増えて168件、まちかど図書室が11団体増えて38団体になった。</p>
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
<p>あらゆる市民が主体的に学ぶ機会を提供するため、新たな年齢層の参加者確保に取り組む必要がある。また、学びのニーズやサービスの多様化に対応するため、各事業との連携先の拡大や講座内容等の見直しを図る必要がある。生涯学習施設の適切な管理については予期せぬ修繕等が非常に多く、利用者への影響を少なくするため、今後は予防的保全の観点を導入する必要がある。</p> <p>まちづくりの拠点としての図書館づくりにおいては、図書館利用者や各種事業の参加者の中から、特に働く世代や子育て世代が自ら新しい活動やコミュニティをつくる動きにつながるような仕組みづくりが必要である。また、図書館や読書に興味がない市民にも、関心を持っていただけるような事業を増やす必要がある。</p>	<p>ischoolにおいて子どもを中心とした講座を展開するとともに、いこま寿大学や図書館事業の「働く大人の週末ゼミ」との事業連携も検討することで、より幅広い世代に学びの場を提供するとともに、寿大学の充実化とこれまで図書館を利用してこなかった層に向け、利用のきっかけを創出したい。また、生涯学習施設の運営については、今後も指定管理者等との連携を密に行い、施設の適切な維持管理を行う。</p> <p>令和7年度には図書館リニューアル事業として、図書館本館の改修工事等を行い、より多くの市民に足を運んでいただけるよう、工事前のクロージングイベントやオリジナルグッズの販売など各種PRを行う。</p>	

(3)文化振興による市の魅力向上		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
<p>市民みんなで創る音楽祭については、市民団体からの企画提案を受け9公演を採択し実施したほか、吹奏楽事業3公演、リベラルコンサート及びライオンズコンサートを実施することにより、市民との協働で音楽文化の裾野を広げ、幅広い市民が身近な場所で気軽に生の演奏に触れ、音楽に親しむ機会を提供できた。</p> <p>歴史文化を通じた郷土愛の醸成においては、郷土学習の拠点である生駒ふるさとミュージアムの運営等を通じて本市の歴史文化を発信するとともに、市の指定文化財に指定する候補の検討を行い、学びの機会の充実や文化財等の保存活用に取り組んだ。</p> <p>また、地域活動に必要な情報として有効な地域の歴史文化に関する「生駒市史資料集」2冊を発刊し、市史編さん事業の研究成果を講演会・地域学習会・ニュースレターなどを通して発信するとともに、ボランティアと協働して市史編さん事業を進めた。</p>	<p>No.1.2 「音楽のまち生駒」推進事業</p> <p>No.1.3 歴史文化の発信</p> <p>No.1.4 市史編さん事業</p>	<p>「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団を中心とした吹奏楽事業により、全14公演を市民との協働で実施し、目標を上回る来場者があった。</p> <p>生駒ふるさとミュージアムにて企画展や各種講座等を実施した。また、本市独自の文化学習として、市内小学校において茶道教室の開催を支援した。</p> <p>史料集第2集・第4集の発刊</p>
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
<p>市民みんなが創る音楽祭については、安定的な公演運営ができる団体が増えてきた一方で、新たな団体からの提案や新たな演奏家の出演が少ないという課題がある。</p> <p>歴史文化を通じた郷土愛の醸成においては、コロナ禍以降の来場者数が回復傾向にある生駒ふるさとミュージアムのさらなる活性化を図る必要がある。また、今後「生駒市史」の本編を作成するにあたり、市民が入手しやすい価格や方法を設定する必要がある。</p>	<p>市民みんなが創る音楽祭については、気軽に応募できる新たな募集枠を創設することにより、次世代の演奏家を発掘し、より多くの市民に音楽に親しむ機会を提供するとともに、本公演に応募する団体や演奏家の裾野を広げる。</p> <p>歴史文化を通じた郷土愛の醸成においては、令和3年度から取り組んでいる市史編さん事業を通じて得られた調査結果等を市史のPRも兼ねた取組として、生駒ふるさとミュージアムの展示や企画等と連携を図ることで当施設の活性化に繋げる。「生駒市史」本編の発行に際しては他市の先進事例と社会情勢に鑑み、市民が入手しやすい価格、方法を設定する。</p>	



《参考》めざす状態に対する市民実感度	
「そう思う」+「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R6.8月】	(参考) 前回値
26.3%	-